

平成 16 年愛知県人口動向調査
名古屋市の世帯数と人口

1 概況

人口は 2,202,111 人、6 年連続で最大人口を更新

平成 16 年 10 月 1 日現在の本市の人口は 2,202,111 人で、平成 15 年の 2,193,376 人を 8,735 人上回り、平成 11 年以降 6 年連続で最大人口を更新した。このうち男は 1,092,926 人、女は 1,109,185 人で、男女とも過去最大の値となっている。

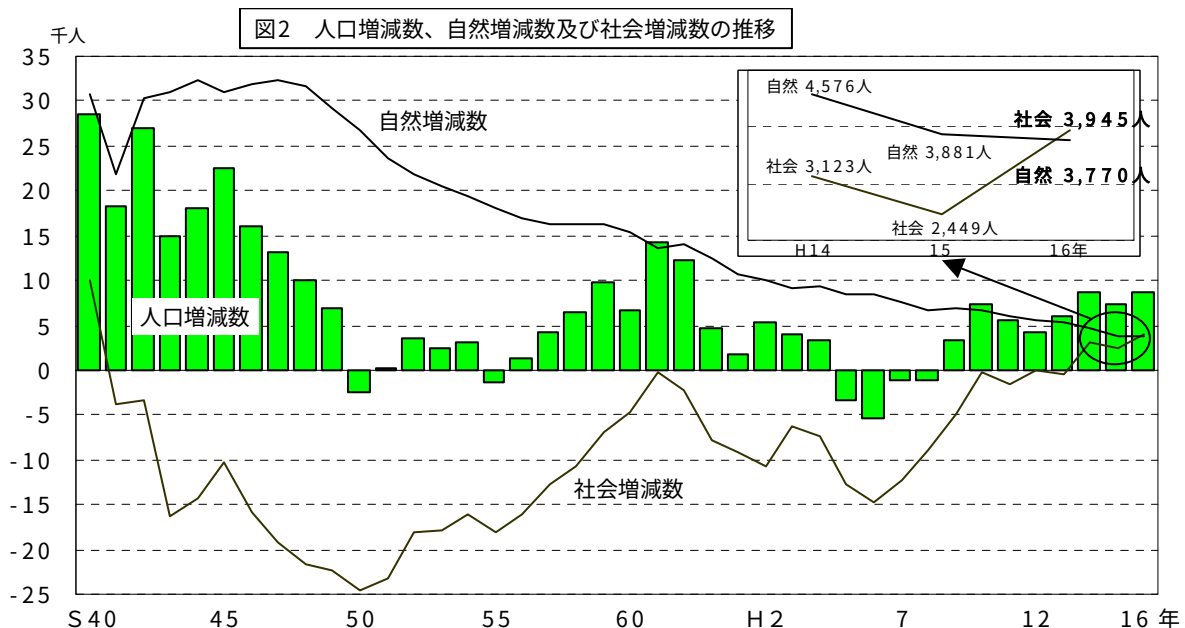
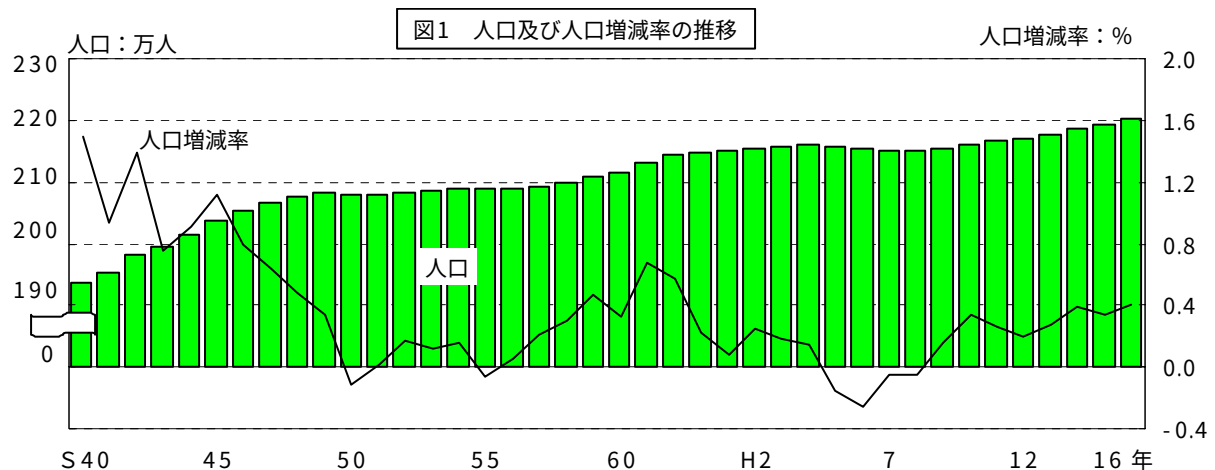
この 1 年間の人口増減率は 0.40% で、8 年連続のプラスとなり、前年の増加率より 0.07 ポイント上回っている。このうち男は 3,740 人（増加率 0.34%）、女は 4,995 人（同 0.45%）増加している。

人口増減のうち自然増減数は 3,770 人増で、昭和 47 年

のピーク時から減少傾向が続いている。そのうち出生数は 20,189 人で、6 年ぶりに増加となったが、死亡数は 16,419 人で、7 年連続の増加となっている。

市外との社会増減数は 3,945 人で、昨年より 1,500 人弱増加し、3 年連続で社会増となった。そのうち転入数は 98,053 人で 4 年連続の増加となり、転出数は 94,108 人で再び減少に転じた。また、昭和 40 年以降では、初めて社会増減数が自然増減数を上回った。

[付表 1、付表 4、図 1、図 2]



本市の昭和 50 年以降の人口は、1 万人以上の転出超過が続いたのに加え、出生数の減少により自然増加が縮小し、人口増加が頭打ちとなった。昭和 50 年代後半から昭和 60 年代初めには、ドーナツ現象の沈静化と相まって大都市への人口再流入がみられ、昭和 61、62 年には年間 1 万人以上の人口増加となったが、その後再び転出超過の傾向が拡大し、平成 5 年には 13 年ぶりに人口減に転じた。

しかし、平成 6 年を底にして、転出超過は急速に回復し、平成 9 年には 5 年ぶりに人口増加となり、さらに本年は 6 年連続で最大人口を更新した。

なお、本年 6 月に人口が初めて 220 万人を突破したが、昭和 44 年 2 月の 200 万人突破から 14 年 9 か月弱で 210 万人を突破したのに対し、210 万人突破から 220 万人突破までに 20 年 7 か月を要したことになる。〔付表 1、図 1〕

付表 1 全市の人口及び自然増減数・市外との社会増減数の推移

人口は各年 10 月 1 日現在、他は各年前年 10 月～当該年 9 月の合計

年 別	人 口	男	女	出 生 数	死 亡 数	自 然 増 減 数	転 入 数	転 出 数	社 会 増 減 数	人 口 増 減 数
昭和 40 年	1,935,430	987,969	947,461	40,265	9,532	30,733	118,871	108,820	10,051	28,599
41	1,953,644	995,406	958,238	31,436	9,490	21,946	114,273	118,005	-3,732	18,214
42	1,980,696	1,008,880	971,816	39,972	9,626	30,346	115,454	118,787	-3,333	27,052
43	1,995,536	1,008,273	987,263	41,213	10,134	31,079	119,742	135,969	-16,227	14,840
44	2,013,621	1,017,118	996,503	42,233	9,922	32,311	130,366	144,609	-14,243	18,085
45	2,036,053	1,033,153	1,002,900	41,082	10,178	30,904	130,541	140,919	-10,378	22,432
46	2,052,173	1,039,208	1,012,965	42,000	10,017	31,983	132,719	148,551	-15,832	16,120
47	2,065,245	1,037,456	1,027,789	42,598	10,233	32,365	123,755	143,049	-19,294	13,072
48	2,075,249	1,039,067	1,036,182	41,963	10,413	31,550	126,543	148,099	-21,556	10,004
49	2,082,235	1,040,741	1,041,494	40,113	10,898	29,215	114,664	136,886	-22,222	6,986
50	2,079,740	1,047,004	1,032,736	37,417	10,757	26,660	106,628	131,199	-24,571	-2,495
51	2,080,050	1,045,503	1,034,547	34,325	10,647	23,678	99,373	122,695	-23,322	310
52	2,083,616	1,045,796	1,037,820	32,484	10,726	21,758	101,512	119,663	-18,151	3,566
53	2,086,118	1,046,049	1,040,069	31,162	10,753	20,409	101,292	119,203	-17,911	2,502
54	2,089,332	1,046,784	1,042,548	29,841	10,540	19,301	99,769	115,856	-16,087	3,214
55	2,087,902	1,045,892	1,042,010	28,907	10,885	18,022	98,154	116,208	-18,054	-1,430
56	2,089,163	1,045,817	1,043,346	28,019	11,131	16,888	94,663	110,686	-16,023	1,261
57	2,093,416	1,047,278	1,046,138	27,319	11,094	16,225	93,697	106,332	-12,635	4,253
58	2,099,830	1,050,070	1,049,760	27,384	11,135	16,249	93,217	103,999	-10,782	6,414
59	2,109,600	1,054,376	1,055,224	27,591	11,356	16,235	90,868	97,772	-6,904	9,770
60	2,116,381	1,057,339	1,059,042	26,619	11,302	15,317	90,983	95,772	-4,789	6,781
61	2,130,632	1,064,549	1,066,083	25,597	11,903	13,694	94,998	95,258	-260	14,251
62	2,142,896	1,070,904	1,071,992	25,775	11,801	13,974	94,328	96,675	-2,347	12,264
63	2,147,667	1,073,464	1,074,203	25,006	12,434	12,572	91,099	98,827	-7,728	4,771
平成 元 年	2,149,517	1,074,037	1,075,480	23,638	12,963	10,675	92,571	101,728	-9,157	1,850
2	2,154,793	1,077,602	1,077,191	23,025	12,996	10,029	91,800	102,513	-10,713	5,276
3	2,158,784	1,080,217	1,078,567	22,543	13,528	9,015	97,531	103,753	-6,222	3,991
4	2,162,007	1,082,075	1,079,932	23,018	13,597	9,421	95,600	103,036	-7,436	3,223
5	2,158,713	1,080,177	1,078,536	22,212	13,842	8,370	92,109	104,866	-12,757	-3,294
6	2,153,293	1,076,333	1,076,960	22,208	13,832	8,376	90,963	105,808	-14,845	-5,420
7	2,152,184	1,073,655	1,078,529	21,983	14,470	7,513	91,864	104,070	-12,206	-1,109
8	2,151,084	1,072,916	1,078,168	21,162	14,440	6,722	91,669	100,574	-8,905	-1,100
9	2,154,376	1,074,510	1,079,866	21,363	14,395	6,968	94,988	99,803	-4,815	3,292
10	2,161,680	1,077,911	1,083,769	21,444	14,809	6,635	96,288	96,638	-350	7,304
11	2,167,327	1,080,129	1,087,198	21,399	15,356	6,043	94,323	95,814	-1,491	5,647
12	2,171,557	1,081,094	1,090,463	20,858	15,363	5,495	94,168	94,251	-83	4,230
13	2,177,451	1,082,741	1,094,710	20,835	15,393	5,442	95,488	95,929	-441	5,894
14	2,186,075	1,086,280	1,099,795	20,427	15,851	4,576	96,408	93,285	3,123	8,624
15	2,193,376	1,089,186	1,104,190	19,936	16,055	3,881	97,112	94,663	2,449	7,301
16	2,202,111	1,092,926	1,109,185	20,189	16,419	3,770	98,053	94,108	3,945	8,735

注 1) 昭和 40 年、45 年、50 年、55 年、60 年、平成 2 年、7 年、12 年の人口は、国勢調査結果による。（各年 10 月 1 日現在）

2) 転入数、転出数及び社会増減数は、市外との移動数のみであり、社会増減数と自然増減数の合計は人口増減数と一致しない。

3) 人口増減数は、当該年 10 月 1 日人口から前年 10 月 1 日人口を差引いたものである。

2 区別人口

区別人口のトップは緑区、29年ぶりにトップが入れ替わる

平成16年10月1日現在の区別の人口をみると、トップが緑区の214,774人で、次いで中川区の214,676人、北区の166,515人の順となっている。中川区、港区、守山区、緑区、名東区、天白区の6区は過去最多となっている。

一方、人口が最も少ないのは熱田区の63,025人、次いで東区の67,736人、中区の68,387人の順となっており、熱田区と比べると緑区は3.4倍の人口規模となっている。

人口増減数をみると、計12区がプラスの値を示しており、そのうち緑区が1,646人と最も多く、次いで守山区が1,167人、中区が1,155人、西区が1,060人、中川区が1,010人、千種区が1,000人と6区で1,000人以上の増加となった。

また、前年に1,000人以上増加した名東区及び天白区は、

本年はそれぞれ409人及び658人の増加にとどまり、前年に500人台の増加であった千種区、西区及び中区で1,000人以上の増加となった。南区は、平成3年以来13年ぶりに人口増に転じた。

一方、人口が減少した区は4区あり、最も減少したのは中村区の617人減、次いで熱田区の184人減、北区の104人減、昭和区の98人減となっている。中村区は、昭和44年以降、36年連続で人口が減少している。

人口が増加する区はおおむね市の周辺部に分布しているものの、近年は市の中心部に位置する区においても人口増加がみられ、中高層のマンション供給が全市的に広がっていることがうかがわれる。

[付表2、付表4、図3]

付表2 区別人口の推移

各年10月1日現在										
区 別	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6
全 市	2,116,381	2,130,632	2,142,896	2,147,667	2,149,517	2,154,793	2,158,784	2,162,007	2,158,713	2,153,293
千 種 区	163,762	164,145	163,144	160,779	158,849	156,478	155,485	154,047	151,511	149,811
東 区	71,506	71,240	71,048	70,452	69,621	69,032	68,411	67,975	67,090	66,645
北 区	175,827	175,897	175,091	173,548	172,826	172,559	172,999	173,590	173,457	172,451
西 区	144,032	143,417	143,069	142,890	142,141	141,384	140,233	140,084	139,213	138,739
中 村 区	153,126	152,174	151,254	149,593	147,880	146,379	144,946	144,010	142,861	141,465
中 区	67,278	67,151	67,134	66,715	66,266	65,833	65,299	64,915	64,081	62,999
昭 和 区	108,434	108,837	108,790	108,235	107,367	106,857	106,201	105,814	105,358	104,239
瑞 穂 区	115,122	114,401	113,555	112,764	111,748	111,360	110,870	109,798	108,722	107,208
熱 田 区	65,021	65,916	66,494	66,151	65,897	65,794	65,811	66,337	65,871	65,278
中 川 区	193,004	194,047	195,431	197,366	198,145	200,111	201,665	202,818	204,562	205,518
港 区	140,956	142,843	145,207	146,002	147,736	148,185	148,642	149,277	149,279	150,165
南 区	162,968	162,914	162,183	161,035	159,973	159,709	160,123	159,411	158,422	156,478
守 山 区	139,824	141,676	143,299	144,705	145,010	144,897	146,207	147,634	148,536	149,657
緑 区	159,555	163,269	167,237	171,365	174,613	178,919	181,487	183,243	185,361	188,254
名 東 区	142,146	145,687	147,903	149,981	150,932	152,519	153,559	153,838	153,272	152,615
天 白 区	113,820	117,018	122,057	126,086	130,513	134,777	136,846	139,216	141,117	141,771
区 別	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
全 市	2,152,184	2,151,084	2,154,376	2,161,680	2,167,327	2,171,557	2,177,451	2,186,075	2,193,376	2,202,111
千 種 区	148,847	148,428	147,918	147,762	147,843	148,537	149,595	150,561	151,148	152,148
東 区	66,096	65,889	65,139	65,373	65,398	65,791	66,155	66,831	67,166	67,736
北 区	171,582	170,718	170,030	169,925	168,969	167,640	167,027	166,924	166,619	166,515
西 区	139,106	138,486	138,978	138,952	139,637	140,364	140,403	140,799	141,331	142,391
中 村 区	140,519	139,410	138,037	137,094	135,811	134,955	134,365	133,672	132,906	132,289
中 区	63,006	62,605	62,643	63,012	63,404	64,669	65,508	66,687	67,232	68,387
昭 和 区	104,293	104,252	104,712	105,157	105,584	105,289	105,458	105,397	105,057	104,959
瑞 穂 区	106,299	105,832	105,571	105,517	105,279	104,410	103,806	103,886	104,076	104,747
熱 田 区	65,055	64,556	64,064	64,391	64,045	62,625	62,975	63,256	63,209	63,025
中 川 区	206,678	206,822	207,555	208,024	208,903	209,982	211,232	212,443	213,666	214,676
港 区	150,538	151,204	150,999	151,361	151,448	151,614	151,485	151,634	152,414	152,706
南 区	154,275	152,428	151,332	150,410	149,376	147,912	147,310	146,140	145,413	145,513
守 山 区	148,919	148,799	150,020	151,401	152,662	154,460	155,988	157,982	159,006	160,173
緑 区	190,936	194,156	198,030	201,188	203,978	206,864	209,261	211,225	213,128	214,774
名 東 区	151,763	150,741	150,439	150,899	152,172	153,103	153,645	154,355	155,544	155,953
天 白 区	144,272	146,758	148,909	151,214	152,818	153,342	153,238	154,283	155,461	156,119

注) 昭和60年、平成2年、7年、12年は国勢調査結果による。

区別の人口増減率をみると、中区が 1.72%でトップとなり、唯一 1%を超えている。また、平成 11 年以降、一貫してプラスの値を示しているのは千種区、東区、西区、中区、中川区、守山区、緑区及び名東区の 8 区である。

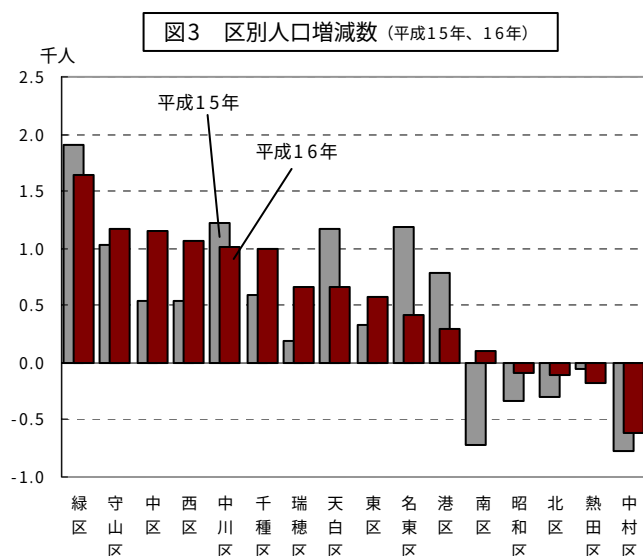
一方、マイナスの値を示したのは北区、中村区、昭和区及び熱田区の 4 区で、熱田区の減少率が前年より悪化したのに

対し、他の 3 区では、いずれも前年より改善している。

[図3、付表 4]

区別の人口順位では、緑区が首位となったが、首位が入れ替わったのは、昭和 50 年にそれまで首位であった千種区が分限して中川区に首位を譲って以来、29 年ぶりのことである。また、本年中、天白区が名東区を抜いて第 5 位となっている。

[付表 3]



付表3 区別人口順位の推移 各年10月1日現在

区 別	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
緑 区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1
中川区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
北 区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
守山区	7	7	7	4	5	4	4	4	4	4
天白区	9	9	8	6	4	5	6	6	6	5
名東区	5	6	6	7	6	6	5	5	5	6
港 区	6	5	5	5	7	7	7	7	7	7
千種区	8	8	9	9	9	8	8	8	8	8
南 区	4	4	4	8	8	9	9	9	9	9
西 区	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10
中村区	10	10	11	11	11	11	11	11	11	11
昭和区	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12
瑞穂区	12	12	12	12	13	13	13	13	13	13
中 区	16	16	16	16	16	15	15	15	14	14
東 区	14	14	14	14	14	14	14	14	15	15
熱田区	15	15	15	15	15	16	16	16	16	16

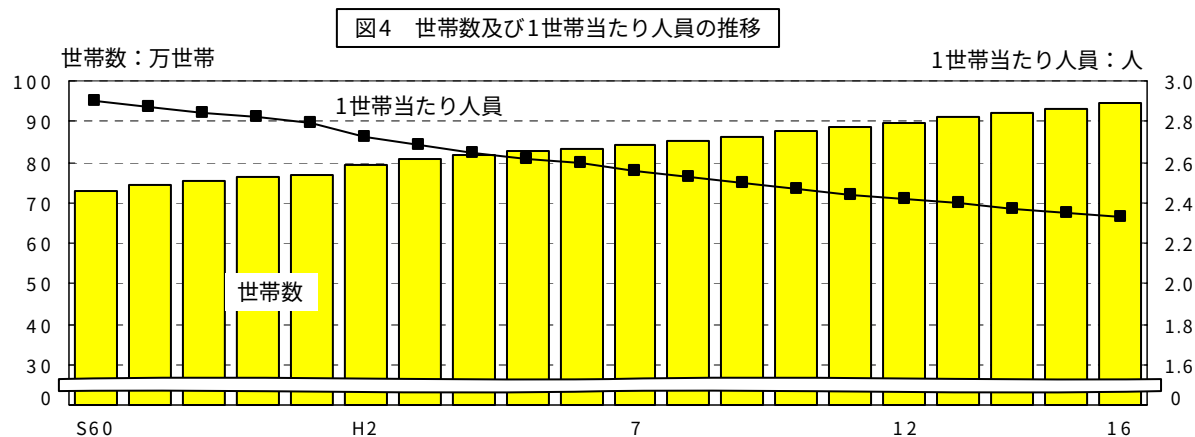
付表4 区別人口の対前年増減数及び対前年増減率の推移

各年10月1日現在

区 別	対 前 年 人 口 増 減 数						対 前 年 人 口 増 減 率 (%)					
	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H11	H12	H13	H14	H15	H16
全 市	5,647	4,230	5,894	8,624	7,301	8,735	0.26	0.20	0.27	0.40	0.33	0.40
千 種 区	81	694	1,058	966	587	1,000	0.05	0.47	0.71	0.65	0.39	0.66
東 区	25	393	364	676	335	570	0.04	0.60	0.55	1.02	0.50	0.85
北 区	-956	-1,329	-613	-103	-305	-104	-0.56	-0.79	-0.37	-0.06	-0.18	-0.06
西 区	685	727	39	396	532	1,060	0.49	0.52	0.03	0.28	0.38	0.75
中 村 区	-1,283	-856	-590	-693	-766	-617	-0.94	-0.63	-0.44	-0.52	-0.57	-0.46
中 区	392	1,265	839	1,179	545	1,155	0.62	2.00	1.30	1.80	0.82	1.72
昭 和 区	427	-295	169	-61	-340	-98	0.41	-0.28	0.16	-0.06	-0.32	-0.09
瑞 穂 区	-238	-869	-604	80	190	671	-0.23	-0.83	-0.58	0.08	0.18	0.64
熱 田 区	-346	-1,420	350	281	-47	-184	-0.54	-2.22	0.56	0.45	-0.07	-0.29
中 川 区	879	1,079	1,250	1,211	1,223	1,010	0.42	0.52	0.60	0.57	0.58	0.47
港 区	87	166	-129	149	780	292	0.06	0.11	-0.09	0.10	0.51	0.19
南 区	-1,034	-1,464	-602	-1,170	-727	100	-0.69	-0.98	-0.41	-0.79	-0.50	0.07
守 山 区	1,261	1,798	1,528	1,994	1,024	1,167	0.83	1.18	0.99	1.28	0.65	0.73
緑 区	2,790	2,886	2,397	1,964	1,903	1,646	1.39	1.41	1.16	0.94	0.90	0.77
名 東 区	1,273	931	542	710	1,189	409	0.84	0.61	0.35	0.46	0.77	0.26
天 白 区	1,604	524	-104	1,045	1,178	658	1.06	0.34	-0.07	0.68	0.76	0.42

3 世帯数

世帯数は10年連続で1万世帯を超える増加数



平成16年10月1日現在の本市の世帯数は945,328世帯で、前年の世帯数を12,437世帯上回り、10年連続で1万世帯を超える増減数となった。また、増減率は1.33%と10年連続で1%を超えており、人口増減率の0.40%を大きく上回る結果となっている。

本市の世帯数は、昭和40年以降人口が伸び悩むなかでも一定規模の増加を示し、人口が減少に転じた昭和50年、55年、平成5～8年にも増加を示している。そのため1世帯当たり人員は縮小を続け、本年は前年の2.35人をさらに下回る2.33人となっている。世帯規模が縮小する背景には核家族世帯や単独世帯の増加が考えられるが、今後は特に単独世帯の増加が予想され、世帯規模の縮小傾向は今後も続くと思われる。 [付表1、付表5、図4]

付表5 全市の世帯数、世帯増減数等

各年10月1日現在

年別	世帯数	対前年世帯増減数	対前年世帯増減率(%)	1世帯当たり人員
昭和60年	730,666	2,674	0.37	2.90
61	741,943	11,277	1.54	2.87
62	752,746	10,803	1.46	2.85
63	761,431	8,685	1.15	2.82
平成元年	770,363	8,932	1.17	2.79
2	792,080	21,717	2.82	2.72
3	805,693	13,613	1.72	2.68
4	817,207	11,514	1.43	2.65
5	825,105	7,898	0.97	2.62
6	830,766	5,661	0.69	2.59
7	841,083	10,317	1.24	2.56
8	851,083	10,000	1.19	2.53
9	862,348	11,265	1.32	2.50
10	875,242	12,894	1.50	2.47
11	886,435	11,193	1.28	2.44
12	897,932	11,497	1.30	2.42
13	909,232	11,300	1.26	2.39
14	921,994	12,762	1.40	2.37
15	932,891	10,897	1.18	2.35
16	945,328	12,437	1.33	2.33

注) 昭和60年、平成2年、7年及び12年は国勢調査結果による。

全区で世帯数が増加、中区の1世帯当たり人員は1.74人で最小

区別の世帯数では中川区が84,502世帯でトップ、次いで緑区の79,230世帯、千種区の73,213世帯、北区の71,483世帯と続いている。世帯数が最も増加した区は中川区の1,343世帯で、中川区を含め5区で1千世帯を超える増減数を示した他、全区で前年を上回った。

対前年世帯増減率をみると、中区が3.45%でトップであり、東区が2.00%で続いている。また、前年を上回る増加

率となった区は、昨年は5区であったが、本年は11区に増加した。

区別の1世帯当たり人員をみると、16区すべてが減少しており、最も小さい中区は1.74人と前年の値をさらに0.03人下回った。反対に1世帯当たりの人員が最も大きいのは緑区の2.71人で、次いで守山区の2.60人となっている。 [付表6、付表7]

付表6 区別世帯数の推移

各年10月1日現在

区 別	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
全 市	841,083	851,083	862,348	875,242	886,435	897,932	909,232	921,994	932,891	945,328
千 種 区	65,546	66,024	66,645	67,343	67,918	69,458	70,459	71,610	72,233	73,213
東 区	28,225	28,513	28,597	29,108	29,560	30,466	30,950	31,668	32,094	32,736
北 区	66,983	67,599	68,250	69,095	69,316	69,101	69,607	70,164	70,733	71,483
西 区	54,158	54,547	55,487	56,064	56,964	58,367	58,884	59,636	60,383	61,427
中 村 区	57,628	58,204	58,496	59,023	59,087	60,253	60,746	61,236	61,543	61,887
中 区	30,719	30,866	31,358	32,071	32,815	34,428	35,572	37,099	37,886	39,193
昭 和 区	47,570	48,102	48,856	49,610	50,242	50,211	50,694	51,008	51,189	51,434
瑞 穂 区	42,979	43,311	43,648	44,053	44,288	44,484	44,665	44,990	45,368	45,966
熱 田 区	25,980	26,147	26,313	26,767	26,959	26,444	26,852	27,269	27,585	27,721
中 川 区	72,937	73,956	75,009	76,097	77,437	78,636	80,084	81,615	83,159	84,502
港 区	52,706	53,664	54,243	54,894	55,765	56,003	56,676	57,556	58,748	59,645
南 区	58,795	58,680	58,888	59,344	59,578	59,427	59,796	59,741	60,011	60,713
守 山 区	52,256	52,870	53,833	54,997	56,098	57,232	58,382	59,633	60,436	61,598
緑 区	65,257	67,151	69,330	71,177	72,834	73,938	75,424	76,682	77,938	79,230
名 東 区	61,139	61,497	61,991	62,735	63,783	65,032	65,677	66,327	66,987	67,381
天 白 区	58,205	59,952	61,404	62,864	63,791	64,452	64,764	65,760	66,598	67,199

注) 7年、12年は国勢調査結果による。

付表7 区別世帯数の対前年増減数、対前年増減率及び1世帯当たり人員の推移

各年10月1日現在

区 別	対 前 年 世 帯 増 減 数					対 前 年 世 帯 増 減 率 (%)					1 世 帯 当 た り 人 員				
	H12	H13	H14	H15	H16	H12	H13	H14	H15	H16	H12	H13	H14	H15	H16
全 市	11,497	11,300	12,762	10,897	12,437	1.30	1.26	1.40	1.18	1.33	2.42	2.39	2.37	2.35	2.33
千 種 区	1,540	1,001	1,151	623	980	2.27	1.44	1.63	0.87	1.36	2.14	2.12	2.10	2.09	2.08
東 区	906	484	718	426	642	3.06	1.59	2.32	1.35	2.00	2.16	2.14	2.11	2.09	2.07
北 区	-215	506	557	569	750	-0.31	0.73	0.80	0.81	1.06	2.43	2.40	2.38	2.36	2.33
西 区	1,403	517	752	747	1,044	2.46	0.89	1.28	1.25	1.73	2.40	2.38	2.36	2.34	2.32
中 村 区	1,166	493	490	307	344	1.97	0.82	0.81	0.50	0.56	2.24	2.21	2.18	2.16	2.14
中 区	1,613	1,144	1,527	787	1,307	4.92	3.32	4.29	2.12	3.45	1.88	1.84	1.80	1.77	1.74
昭 和 区	-31	483	314	181	245	-0.06	0.96	0.62	0.35	0.48	2.10	2.08	2.07	2.05	2.04
瑞 穂 区	196	181	325	378	598	0.44	0.41	0.73	0.84	1.32	2.35	2.32	2.31	2.29	2.28
熱 田 区	-515	408	417	316	136	-1.91	1.54	1.55	1.16	0.49	2.37	2.35	2.32	2.29	2.27
中 川 区	1,199	1,448	1,531	1,544	1,343	1.55	1.84	1.91	1.89	1.61	2.67	2.64	2.60	2.57	2.54
港 区	238	673	880	1,192	897	0.43	1.20	1.55	2.07	1.53	2.71	2.67	2.63	2.59	2.56
南 区	-151	369	-55	270	702	-0.25	0.62	-0.09	0.45	1.17	2.49	2.46	2.45	2.42	2.40
守 山 区	1,134	1,150	1,251	803	1,162	2.02	2.01	2.14	1.35	1.92	2.70	2.67	2.65	2.63	2.60
緑 区	1,104	1,486	1,258	1,256	1,292	1.52	2.01	1.67	1.64	1.66	2.80	2.77	2.75	2.73	2.71
名 東 区	1,249	645	650	660	394	1.96	0.99	0.99	1.00	0.59	2.35	2.34	2.33	2.32	2.31
天 白 区	661	312	996	838	601	1.04	0.48	1.54	1.27	0.90	2.38	2.37	2.35	2.33	2.32

4 自然増減

自然増減数は 3,770 人、ピーク時の 11.6%に縮小

本市の自然増減数は、出生数の漸減と死亡数の漸増により、昭和47年の32,365人をピークに徐々に縮小してきており、昭和54年には2万人を、また平成3年には1万人を割り込み、本年は3,770人となっている。前年と比べると111人の減少で、ピーク時の11.6%の規模にまで縮小している。

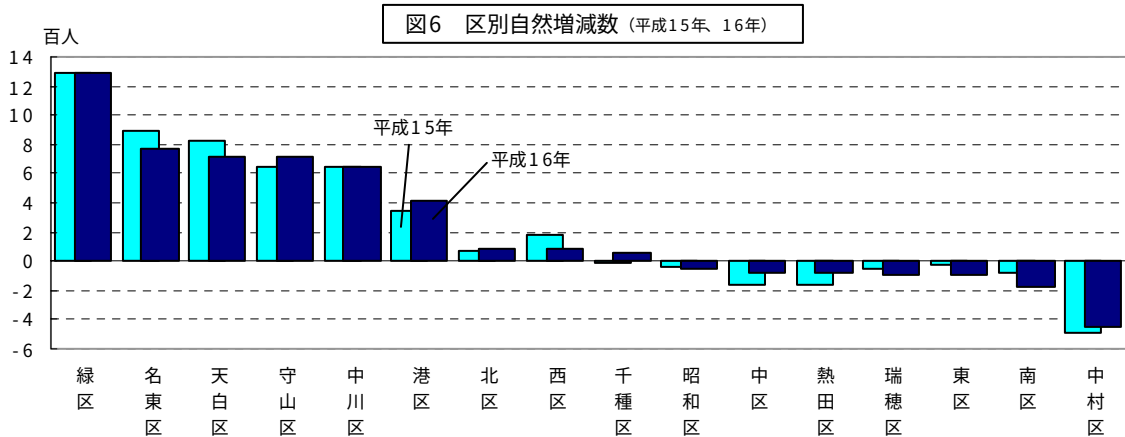
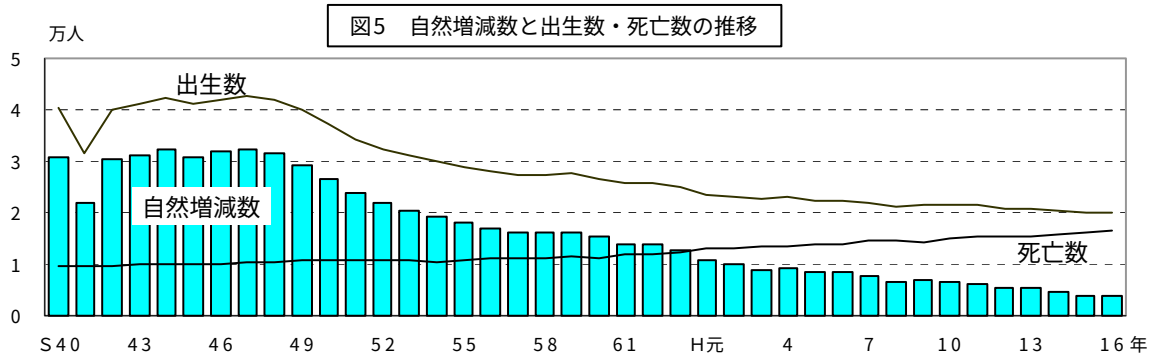
[付表1、付表8、図5]

自然増減数を区別にみると、自然増となった区は9区であり、緑区が最大の1,289人で、以下名東区の766人、天

白区の712人、守山区の711人の順となっている。千種区は3年ぶりに自然増に転じた。

自然減となったのは7区であるが、うち、中村区及び中区は平成5年以降12年連続で自然減となっており、瑞穂区及び熱田区は平成7年以降10年連続、東区、昭和区及び南区は平成14年以降3年連続で自然減となっている。

[付表8、図6]



付表8 区別自然増減数の推移

区 別	各年前年10月～当該年9月												
	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
全 市	9,421	8,370	8,376	7,513	6,722	6,968	6,635	6,043	5,495	5,442	4,576	3,881	3,770
千 種 区	293	127	204	206	88	88	89	176	70	59	-31	-6	58
東 区	68	-11	81	22	39	12	45	-41	6	19	-8	-31	-91
北 区	746	636	734	454	406	337	376	323	244	182	155	75	91
西 村 区	367	274	296	405	320	244	258	235	273	197	148	186	84
中 区	47	-27	-120	-185	-324	-264	-277	-370	-404	-352	-429	-486	-443
昭 和 区	29	-48	-33	-76	-112	-74	-58	-117	-67	-84	-58	-157	-75
瑞 穂 区	87	56	57	-15	33	38	13	-20	19	32	-19	-44	-47
熱 田 区	195	76	78	-30	-37	-32	-45	-49	-5	-46	-55	-58	-87
中 川 区	51	101	82	-8	-55	-59	-7	-95	-51	-64	-117	-164	-85
港 区	1,254	1,097	1,170	1,141	1,066	1,057	888	962	778	944	621	645	653
南 区	846	818	721	698	719	789	732	666	532	505	465	345	408
守 山 区	408	405	261	296	247	247	82	83	32	19	-5	-86	-174
緑 区	907	888	902	864	794	862	843	784	712	790	743	647	711
名 東 区	1,510	1,413	1,427	1,430	1,356	1,418	1,494	1,404	1,448	1,384	1,441	1,289	1,289
天 白 区	1,336	1,271	1,246	1,129	1,067	1,096	999	943	887	880	840	895	766
天 白 区	1,277	1,294	1,270	1,182	1,115	1,209	1,203	1,159	1,021	977	885	831	712

5 社会増減

(1) 市外との社会増減

市外との社会増減数は 3,945 人、3 年連続で転入超過

平成 16 年の市外との社会増減数は、転入数が 98,053 人、転出数が 94,108 人で、3,945 人の転入超過となり、3 年連続の転入超過となった。前年と比べ転入数は 941 人の増加、転出数では 555 人の減少となった。

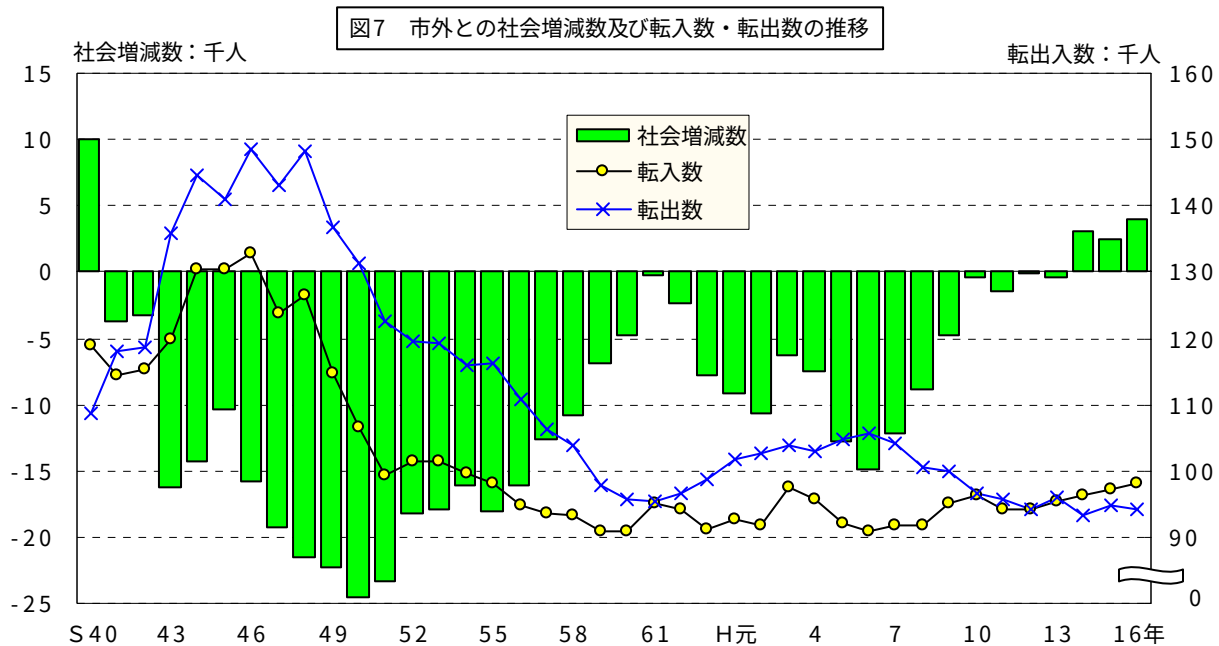
本市の市外との社会増減数は、昭和 41 年以降平成 13 年まで 36 年にわたって転出超過であった。昭和 50 年には最

大の 24,571 人の転出超過を示している。昭和 61 年には、いったん 260 人の転出超過にまで回復したものの、その後再び平成 6 年まで転出超過の拡大傾向が続いた。しかし、平成 7 年以降は縮小傾向で推移し、平成 13 年を最後に転出超過がストップした。

近年では、転入数は平成 12 年を底として毎年わずかでは

あるものの、増加を続けており、一方、転出数は平成6年をピークにおおむね減少を続けている。この動きの中で、平成

14年には37年ぶりに転入超過となり、本年においても転入超過が継続している。 [付表1、付表9、図7]



付表9 区別転入数・転出数の推移

各年前年10月～当該年9月

区 別	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
	転入数（区間移動・その他を含む）							転出数（区間移動・その他を含む）						
全 市	155,648	153,209	152,679	154,113	153,868	154,359	156,096	154,979	153,605	151,839	153,661	149,820	150,939	151,131
千種区	13,782	13,679	13,694	14,279	14,026	13,777	14,315	14,027	13,774	13,469	13,280	13,029	13,184	13,373
東 区	6,017	6,043	6,284	6,369	6,427	6,386	6,686	5,828	5,977	6,034	6,024	5,743	6,020	6,025
北 区	9,759	9,131	9,672	9,521	9,498	9,514	9,711	10,240	10,410	10,333	10,316	9,756	9,894	9,906
西 区	8,385	9,124	8,652	8,691	9,320	9,331	9,672	8,669	8,674	8,730	8,849	9,072	8,985	8,696
中村区	8,124	7,760	7,977	8,088	8,210	8,316	8,189	8,790	8,673	8,343	8,326	8,474	8,596	8,363
中区	7,583	8,013	8,653	9,305	9,535	10,621	11,157	7,156	7,504	7,736	8,382	8,298	9,919	9,927
昭和区	9,598	9,599	9,112	9,522	9,029	9,024	9,060	9,166	9,152	9,291	9,385	9,071	9,320	9,111
瑞穂区	7,348	7,295	6,916	6,592	6,826	6,827	7,487	7,357	7,484	7,359	7,150	6,691	6,579	6,729
熱田区	5,445	4,654	4,322	5,190	4,879	4,777	4,550	5,111	4,905	4,753	4,776	4,481	4,660	4,649
中川区	11,034	11,197	11,637	11,729	11,829	11,977	12,053	11,453	11,280	11,321	11,423	11,239	11,399	11,696
港 区	7,977	7,969	7,903	7,986	7,837	8,258	7,744	8,347	8,548	8,194	8,620	8,153	7,823	7,860
南区	8,489	8,037	7,901	8,290	7,563	7,736	8,342	9,493	9,154	8,831	8,911	8,728	8,377	8,068
守山区	10,264	10,196	10,654	10,235	10,600	9,936	10,062	9,726	9,719	9,303	9,497	9,349	9,559	9,606
緑 区	12,623	12,050	12,059	11,787	11,072	11,060	11,136	10,959	10,664	10,442	10,774	10,549	10,446	10,779
名東区	15,551	15,604	15,260	14,916	15,000	14,744	13,941	16,090	15,274	15,294	15,254	15,130	14,450	14,298
天白区	13,669	12,858	11,983	11,613	12,217	12,075	11,991	12,567	12,413	12,406	12,694	12,057	11,728	12,045
	転入数（市外のみ）							転出数（市外のみ）						
全 市	96,288	94,323	94,168	95,488	96,408	97,112	98,053	96,638	95,814	94,251	95,929	93,285	94,663	94,108
千種区	9,117	8,831	8,972	9,234	9,154	9,008	9,192	8,862	8,724	8,487	8,431	8,446	8,423	8,352
東 区	3,239	3,363	3,524	3,525	3,766	3,546	3,649	3,069	3,127	3,158	3,170	3,124	3,280	3,266
北 区	5,802	5,369	5,829	5,749	5,791	5,738	5,817	6,233	6,352	6,308	6,411	6,056	6,191	6,036
西 区	5,566	5,858	5,662	5,769	6,166	6,276	6,456	5,769	5,778	5,716	5,836	5,996	5,979	5,853
中村区	5,370	4,958	5,159	5,030	5,241	5,289	5,145	5,412	5,126	4,899	4,966	4,902	5,131	4,938
中区	4,585	4,958	5,513	6,114	6,451	7,300	7,574	3,856	4,110	4,363	5,030	4,807	6,310	6,199
昭和区	6,037	6,077	5,677	5,971	5,744	5,692	5,689	5,562	5,545	5,487	5,668	5,301	5,570	5,354
瑞穂区	4,094	4,088	3,790	3,767	3,688	3,596	3,853	3,984	4,086	3,928	3,858	3,677	3,610	3,675
熱田区	2,782	2,477	2,385	2,649	2,497	2,510	2,474	2,617	2,490	2,509	2,451	2,272	2,389	2,194
中川区	6,121	6,119	6,175	6,580	6,642	6,744	6,834	6,744	6,547	6,619	6,612	6,578	6,523	6,969
港 区	4,175	4,113	4,216	4,198	3,970	4,459	4,379	4,486	4,768	4,297	4,593	4,333	4,184	4,329
南区	5,042	4,745	4,459	4,652	4,348	4,496	4,796	5,210	5,104	5,084	5,015	4,828	4,727	4,566
守山区	6,650	6,545	6,659	6,572	7,102	6,721	6,759	6,967	6,971	6,644	6,737	6,701	6,794	6,851
緑 区	7,541	7,241	7,279	7,148	6,887	7,178	7,295	7,457	7,302	7,156	7,353	7,022	7,007	7,183
名東区	11,405	11,426	11,010	10,992	11,133	10,784	10,388	12,152	11,629	11,560	11,559	11,340	10,854	10,605
天白区	8,762	8,155	7,859	7,538	7,828	7,775	7,753	8,258	8,155	8,036	8,239	7,902	7,691	7,738

(2) 年齢 5 歳階級別社会増減

20～24 歳の転入超過数が最多

社会増減（職権記載・消除等を含む）を年齢 5 歳階級別にみると、15～19 歳、20～24 歳、25～29 歳、30～34 歳、45～49 歳、65～69 歳、75～79 歳の階級で転入超過となっている。

転入超過数の最も多い階級は 20～24 歳、次いで 15～19 歳となっている。一方、転出超過数が最も多い階級は

0～4 歳、次いで 5～9 歳となっている。

次に、長期的な推移を 5 年毎にみると、15～19 歳の転入超過数は漸減しているのに対し、昭和 59 年に転出超過であった 20～24 歳は平成元年から 6 年にかけて減少したものの、漸増している。 [付表 10、図 8]

付表 10 年齢 5 歳階級別社会増減数の推移

年齢 5 歳階級	各年前年 10 月～当該年 9 月								
	S59	H元	H6	H11	H12	H13	H14	H15	H16
総 数	-6,465	-8,825	-13,796	-396	840	452	4,048	3,420	4,965
0～4 歳	-1,916	-2,226	-2,495	-804	-814	-983	-506	-571	-530
5～9	-1,006	-1,470	-1,671	-571	-603	-606	-295	-286	-400
10～14	-761	-1,206	-1,013	-465	-313	-413	-218	-238	-275
15～19	4,508	4,167	2,839	2,304	2,238	2,135	2,130	2,098	1,953
20～24	-1,068	813	332	2,577	3,475	3,188	3,925	3,782	4,345
25～29	-1,037	-1,092	-2,521	-200	101	-440	426	185	566
30～34	-1,541	-1,778	-2,831	-411	-725	-659	-11	71	225
35～39	-1,075	-1,487	-2,010	-573	-467	-311	-1	59	-221
40～44	-734	-1,041	-1,290	-433	-357	-416	-22	-110	-60
45～49	-556	-956	-1,090	-479	-312	-256	-140	-145	61
50～54	-403	-855	-795	-436	-371	-130	-259	-311	-102
55～59	-332	-618	-535	-348	-327	-415	-364	-384	-344
60～64	-262	-434	-274	-219	-211	-50	-203	-321	-182
65～69	-77	-161	-23	-27	7	92	-37	-89	92
70～74	-121	-163	-146	-29	-104	-28	-86	-123	-5
75～79	-16	-157	-106	-86	-116	-94	-93	-47	3
80～84	-52	-83	-117	-82	-148	-57	-105	-100	-56
85 歳以上	-16	-77	-51	-120	-112	-111	-102	-51	-108

（注 1）総数には年齢不詳を含む。

（注 2）社会増減数には職権記載・消除等を含む。

(3) 区別社会増減

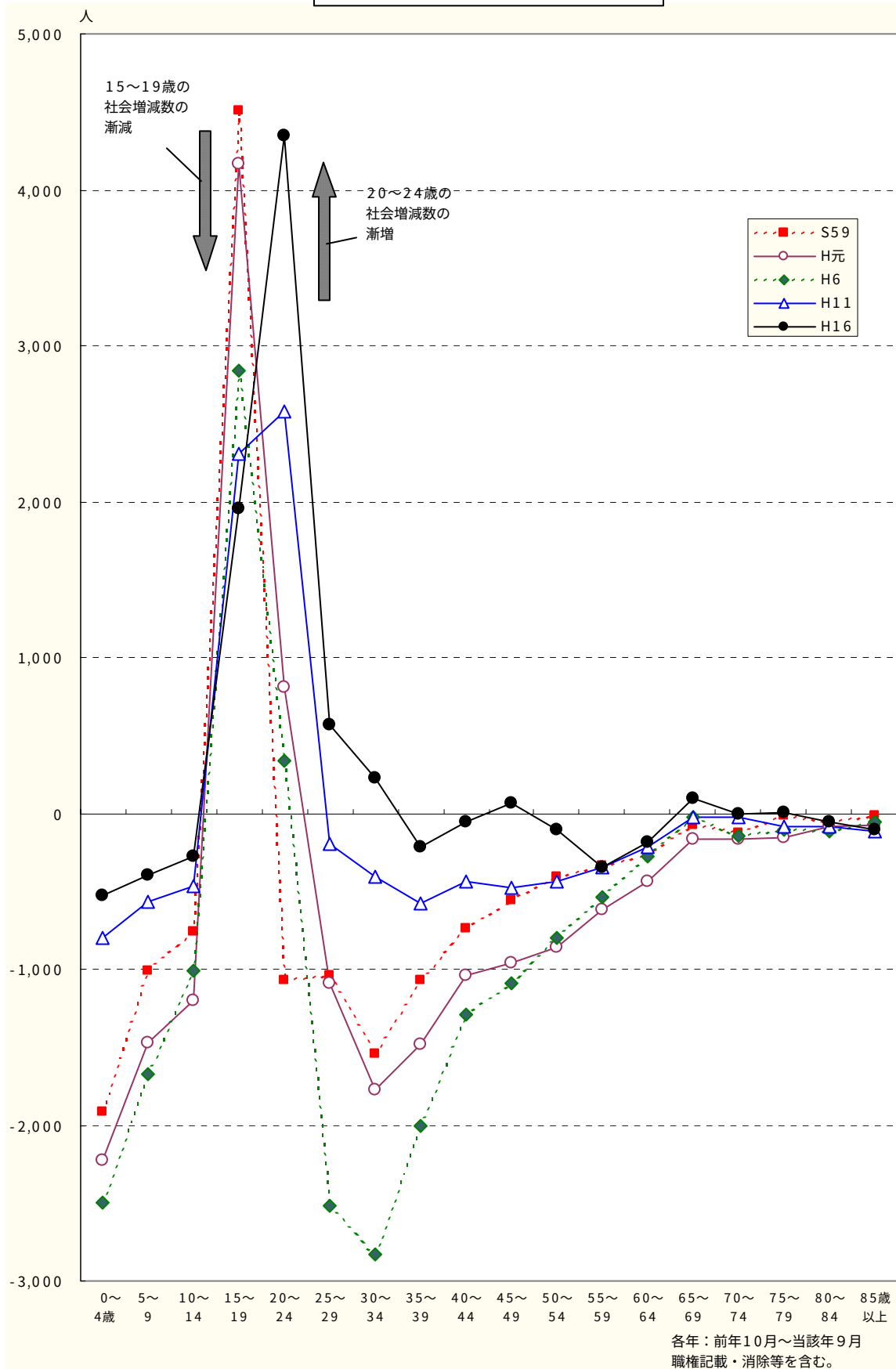
市内区間移動、職権記載・消除等を含む区別の社会増減数をみると、前年に比べ増減に大きな変動がみられる。転入超過となったのは 9 区で昨年より 3 区減少した。また、南区が転出超過から転入超過に転じた一方で、熱田区、港区、名東区及び天白区が転入超過から転出超過に転じた。

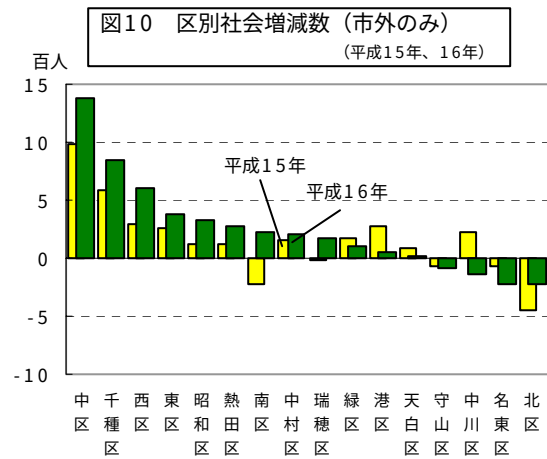
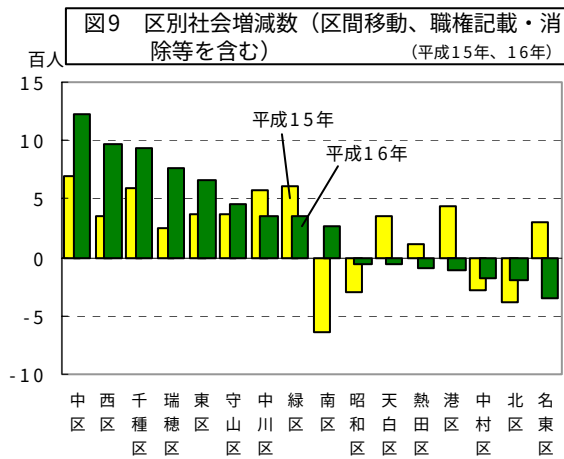
[付表 11、図 9]

次に、市外との社会増減数をみると、中区が 1,375 人と、

転入超過数のトップとなっており、千種区の 840 人、西区の 603 人と続いている。なお、中区の転入超過数は、平成 10 年以降 7 年連続でトップである。次いで、瑞穂区及び南区では減少から増加に転じ、北区では減少幅が小さくなるなど前年より改善した区が多い。一方で中川区は 3 年ぶりに減少に転じ、守山区及び名東区では減少幅がやや大きくなった。 [付表 12、図 10]

図8 年齢5歳階級別社会増減数の推移





付表11 区別社会増減数（区間移動、職権記載・消除等を含む）の推移

区 別	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
全 市	-11,664	-13,796	-10,972	-7,822	-3,676	669	-396	840	452	4,048	3,420	4,965
千 種 区	-2,663	-1,904	-1,194	-507	-598	-245	-95	225	999	997	593	942
東 区	-874	-526	-919	-246	-762	189	66	250	345	684	366	661
北 区	-769	-1,740	-1,475	-1,270	-1,025	-481	-1,279	-661	-795	-258	-380	-195
西 区	-1,145	-770	-263	-940	248	-284	450	-78	-158	248	346	976
中 村 区	-1,122	-1,276	-1,505	-985	-1,109	-666	-913	-366	-238	-264	-280	-174
中 区	-786	-1,049	-184	-289	112	427	509	917	923	1,237	702	1,230
昭 和 区	-512	-1,176	-953	-74	422	432	447	-179	137	-42	-296	-51
瑞 穂 区	-1,152	-1,592	-1,167	-430	-229	-9	-189	-443	-558	135	248	758
熱 田 区	-567	-675	-463	-444	-433	334	-251	-431	414	398	117	-99
中 川 区	647	-214	-302	-922	-324	-419	-83	316	306	590	578	357
港 区	-816	165	-311	-53	-994	-370	-579	-291	-634	-316	435	-116
南 区	-1,394	-2,205	-1,901	-2,094	-1,343	-1,004	-1,117	-930	-621	-1,165	-641	274
守 山 区	14	219	-882	-914	359	538	477	1,351	738	1,251	377	456
緑 区	705	1,466	1,325	1,864	2,456	1,664	1,386	1,617	1,013	523	614	357
名 東 区	-1,837	-1,903	-1,746	-2,089	-1,398	-539	330	-34	-338	-130	294	-357
天 白 区	607	-616	968	1,371	942	1,102	445	-423	-1,081	160	347	-54

付表12 区別社会増減数（市外のみ）の推移

区 別	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
全 市	-12,757	-14,845	-12,206	-8,905	-4,815	-350	-1,491	-83	-441	3,123	2,449	3,945
千 種 区	-1,156	-986	-590	-302	2	255	107	485	803	708	585	840
東 区	-379	-266	-579	-206	-279	170	236	366	355	642	266	383
北 区	-1,291	-1,866	-1,514	-1,047	-874	-431	-983	-479	-662	-265	-453	-219
西 区	-888	-882	-795	-888	-192	-203	80	-54	-67	170	297	603
中 村 区	-571	-620	-647	-405	-372	-42	-168	260	64	339	158	207
中 区	80	-99	271	180	359	729	848	1,150	1,084	1,644	990	1,375
昭 和 区	-399	-486	-302	401	396	475	532	190	303	443	122	335
瑞 穂 区	-361	-746	-291	-185	133	110	2	-138	-91	11	-14	178
熱 田 区	-535	-461	-36	-62	35	165	-13	-124	198	225	121	280
中 川 区	-535	-805	-1,012	-1,001	-736	-623	-428	-444	-32	64	221	-135
港 区	-657	-613	-627	-559	-552	-315	-655	-81	-395	-363	275	50
南 区	-912	-1,216	-1,084	-843	-512	-168	-359	-625	-363	-480	-231	230
守 山 区	-1,391	-1,086	-1,613	-1,638	-765	-317	-426	15	-165	401	-73	-92
緑 区	-1,207	-1,121	-950	-214	21	84	-61	123	-205	-135	171	112
名 東 区	-1,957	-2,411	-2,032	-2,198	-1,537	-748	-203	-550	-567	-207	-70	-217
天 白 区	-598	-1,182	-416	59	58	504	0	-177	-701	-74	84	15

(4) 地域別社会増減

九州及び国外との転入超過が拡大し、県内との転出超過は半減

平成に入った後の、本市と市外各地域との社会増減の推移をみると、転出超過のピークであった平成6年には、その大半が愛知県内他市町村(以下「県内」という。)への転出超過であった。

その後、平成10年まで、県内への転出超過が縮小するに従って、社会増減数の総数も改善してきた。

平成11年から平成13年にかけては、主に関東や国外との移動に影響され、社会増減数の総数は減少、増加、減少と推移した。

しかし、平成14年は県内との転出超過が平成13年のほぼ半分に縮小したこともあり、市外との社会増減数は37年ぶりにプラスに転じた。

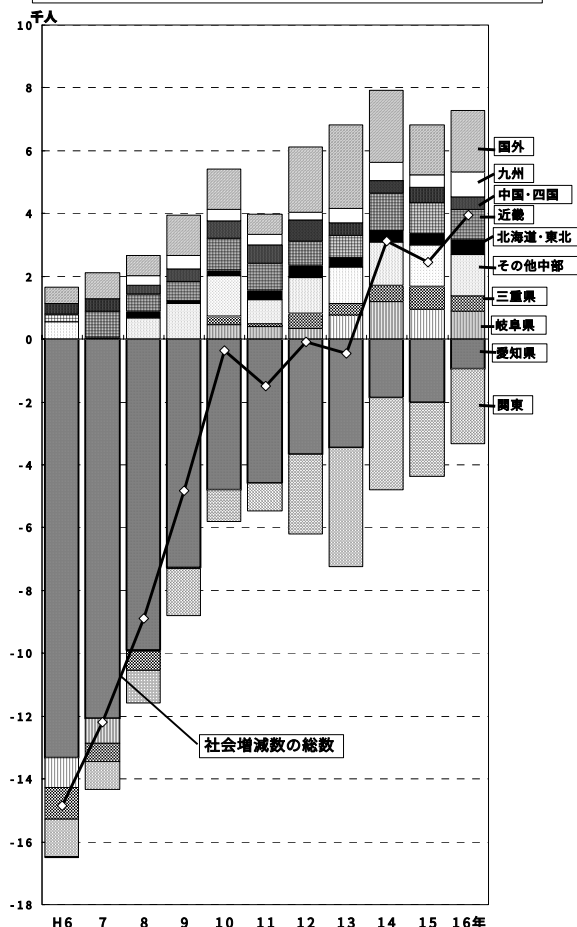
また、近隣の岐阜県及び三重県との社会増減数は、平成8年までは転出超過となっていたが、平成10年以降は両県ともに転入超過となっている。

本年の転入超過地域では、九州が前年の422人から777人と355人の拡大、国外が1,581人から1,964人と383人拡大した。

一方、転出超過地域では、関東が、2,370人から2,401人と31人拡大したものの、県内が2,009人から940人に半減した。

こうしたことから、市外との社会増減数は、前年より1,496人増の3,945人となった。 [付表13、図11]

図11 市外各地域との社会増減数の推移



付表13 地域別転入数・転出数・社会増減数

前住地又は 転出地	平成15年			平成16年			各年前年10月～当該年9月 増減数 (平成16年－平成15年)		
	転入数	転出数	社会増減数	転入数	転出数	社会増減数	転入数	転出数	社会増減数
総数	97,112	94,663	2,449	98,053	94,108	3,945	941	-555	1,496
北海道	1,266	1,086	180	1,300	1,069	231	34	-17	51
東北	1,371	1,169	202	1,513	1,253	260	142	84	58
関東	16,701	19,071	-2,370	16,643	19,044	-2,401	-58	-27	-31
中部	48,945	47,960	985	49,052	47,294	1,758	107	-666	773
うち岐阜県	5,954	5,009	945	5,756	4,863	893	-198	-146	-52
うち愛知県	29,761	31,770	-2,009	30,283	31,223	-940	522	-547	1,069
うち三重県	4,464	3,730	734	4,269	3,770	499	-195	40	-235
近畿	9,661	8,690	971	9,611	8,663	948	-50	-27	-23
中国	2,320	1,892	428	2,232	1,954	278	-88	62	-150
四国	954	910	44	954	829	125	0	-81	81
九州	4,895	4,473	422	5,053	4,276	777	158	-197	355
国外	10,993	9,412	1,581	11,690	9,726	1,964	697	314	383

(注) 総数には前住地不詳又は転出地不詳を含む。

県内市町村からの転入数は増加、転出数は減少

県内他市町村への転出超過数は、昨年の 2,009 人から 940 人へと半減したが、これは、転入数が昨年の 29,761 人から 30,283 人と 522 人増加し、転出数が 31,770 人から 31,223 人と 547 人減少したことによる。

転出数が年々抑制傾向にあることは、本調査の分析でもしばしば指摘してきたところであるが、本年は、転入数も 2 年ぶりに増加した。ちなみに、転入数 30,283 人は、昭和 55 年の 31,158 人に次ぐ水準である。[付表 13、図 12]

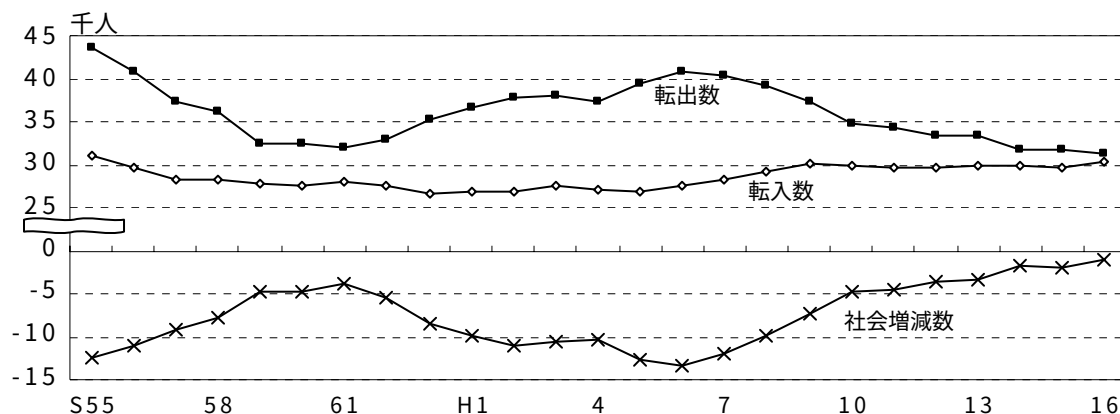
本市との移動が転入超過となっている県内市町村をみると、豊田市が転入超過数 238 人と最も多く、次いで、豊明

市、知多市と続いている。前年と比較すると、豊田市からの転入超過数は 100 人以上増加し、豊明市は転出超過から転入超過に転じている。

一方、本市との移動が転出超過となっている県内市町村をみると、日進市が転出超過数 665 人と最も多く、次いで、尾張旭市、大治町と続いている。

なお、転入数は、春日井市が 3,271 人と群を抜いて多く、次いで、豊田市、一宮市と続いている。転出数では、転入数と同様に春日井市が 3,313 人と最も多く、次いで、日進市、一宮市と続いている。 [付表 14]

図 12 本市と県内市町村との転入数・転出数及び社会増減数の推移



付表 14 県内市町との社会増減数等（平成 16 年の転入超過数・転出超過数の各上位 15 位）

前住地又は 転出地	H15			H16			増減数（H16－H15）		
	転入数	転出数	社会増減数	転入数	転出数	社会増減数	転入数	転出数	社会増減数
転入超過数の上位 15 位									
豊田市	1,312	1,182	130	1,423	1,185	238	111	3	108
豊明市	925	929	-4	964	836	128	39	-93	132
知多市	576	524	52	545	467	78	-31	-57	26
江南市	422	522	-100	467	396	71	45	-126	171
犬山市	354	359	-5	395	326	69	41	-33	74
岩倉市	469	436	33	440	378	62	-29	-58	29
佐屋町	225	232	-7	227	172	55	2	-60	62
半田市	546	462	84	526	490	36	-20	28	-48
美浜町	145	109	36	129	94	35	-16	-15	-1
春日町	45	94	-49	88	57	31	43	-37	80
高浜市	96	118	-22	119	95	24	23	-23	46
新城市	75	71	4	67	44	23	-8	-27	19
武豊町	186	140	46	158	135	23	-28	-5	-23
佐織町	104	115	-11	140	118	22	36	3	33
蒲郡市	158	132	26	169	148	21	11	16	-5
転出超過数の上位 15 位									
日進市	1,229	1,876	-647	1,170	1,835	-665	-59	-41	-18
尾張旭市	1,098	1,367	-269	1,113	1,313	-200	15	-54	69
大治町	514	706	-192	588	741	-153	74	35	39
長久手町	864	965	-101	782	894	-112	-82	-71	-11
一宮市	1,322	1,265	57	1,251	1,356	-105	-71	91	-162
甚目寺町	427	636	-209	493	592	-99	66	-44	110
安城市	613	595	18	587	663	-76	-26	68	-94
蟹江町	534	539	-5	517	590	-73	-17	51	-68
豊山町	156	294	-138	180	243	-63	24	-51	75
豊川市	318	334	-16	285	347	-62	-33	13	-46
大府市	734	774	-40	749	804	-55	15	30	-15
小牧市	944	1,067	-123	977	1,020	-43	33	-47	80
春日井市	2,983	3,094	-111	3,271	3,313	-42	288	219	69
豊橋市	920	766	154	911	951	-40	-9	185	-194
扶桑町	135	150	-15	141	180	-39	6	30	-24

6 年齢構成

年少人口比率は緑区が 16.8%でトップ、生産年齢人口比率は天白区が 70.0%でトップ

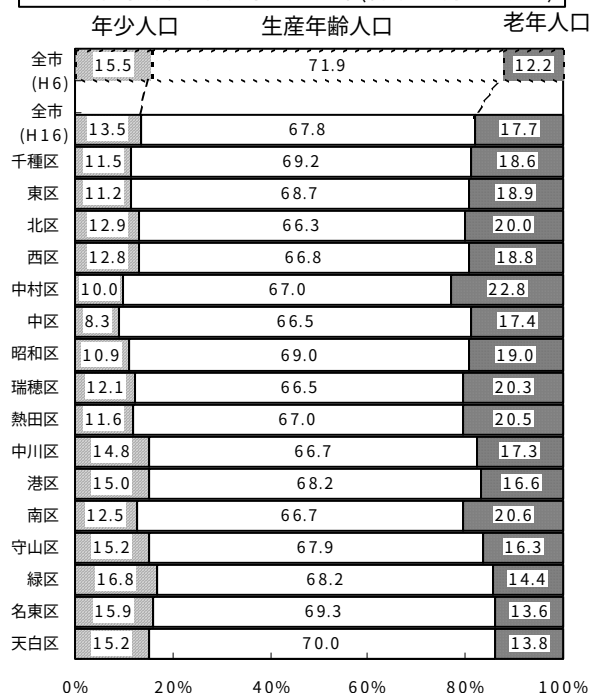
年齢 3 区分別人口比率を 10 年前と比較すると、年少人口(14 歳以下の人口)は 13.5%で 2.0 ポイント低下、生産年齢人口(15 歳～64 歳の人口)は 67.8%で 4.1 ポイント低下したのに対し、老年人口(65 歳以上の人口)は 17.7%と、5.5 ポイント上昇した。 [図 13]

区別にみると、年少人口は緑区が 16.8%と最も高く、次いで名東区が 15.9%、守山区並びに天白区が 15.2%で続いている。最も低いのは中区で 8.3%、以下、中村区が 10.0%、昭和区が 10.9%、東区が 11.2%となっている。

生産年齢人口では天白区の比率が最も高く、唯一 70%を超えている。69%台は、千種区、昭和区及び名東区であり、これらの比率が高い区は、地下鉄千種駅以東(千種区及び名東区)、同鶴舞駅以東(昭和区及び天白区)に位置している。

老年人口では、中村区の 22.8%を始め北区、瑞穂区、熱田区及び南区の 5 区で 20%以上の比率となった。昨年 19.5%であった北区が 0.5 ポイント増となり、新たに 20%以上の区となった。また、これらの区は、北区を除き、いずれも自然減となっている。 [図 13、図 6]

図13 区別年齢3区分別人口比率(各年10月1日現在)



注:総数に年齢不詳の者を含むため、各数値の合計は100にならない。

出産期の女性人口が減少し、出生数も減少傾向に

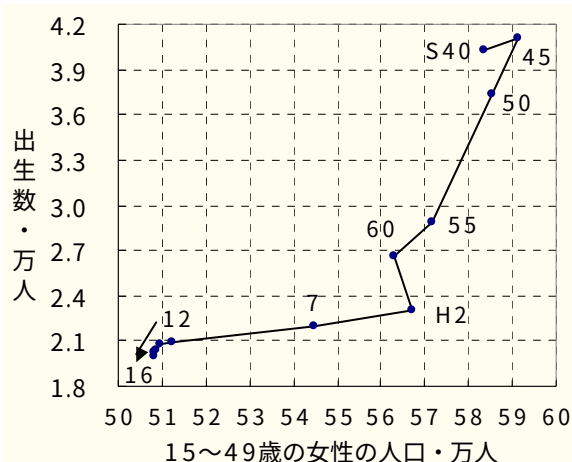
出産期(15～49 歳)における女性の人口(以下「出産期女性人口」という)と出生数の推移をみると、第 2 次ベビーブーム期直前にあたる昭和 45 年では、出産期女性人口 591,483 人・出生数 41,082 人であるのに対し、本年は、出産期女性人口 50,819 人・出生数 20,189 人である。この 24 年間に於いて、出産期女性人口が 14.1%の減であるのに対し、出生数は 50.9%もの減となっている。

ちなみに、本市の昭和 45 年における合計特殊出生率は 2.00 人であり、平成 15 年は 1.18 人となっている。

昭和 60 年から平成 2 年にかけての出産期女性人口の増加は、第 2 次ベビーブーム期に出生した女性が出産期にさしかかったためであるが、出生数は伸びず、その後平成 12 年まで、出産期女性人口の急激な減少期に入った。平成 5～8 年は、転出超過による本市の人口の減少期にもあたり、社会動態が自然動態に与える影響を垣間見ることができる。

[付表 1、付表 15、図 14、図 6]

図14 出生数と女性の人口(15～49歳)の散布図



※15～49 歳の女性を出産期とした根拠

合計特殊出生率を算定するにあたり、当該年齢層の女性の年齢別出生率を用いることに準拠した。

付表15 年齢（5歳階級）別人口（女性15～49歳）

（各年10月1日）

年 齢	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H13	H14	H15	H16
総 数	583,344	591,483	585,502	571,690	563,197	567,120	544,615	512,216	509,379	508,870	508,040	508,192
15～19歳	110,878	82,937	72,480	77,047	78,270	85,215	67,893	59,515	56,728	55,028	53,844	52,213
20～24	108,678	119,763	90,823	78,901	83,205	86,672	93,833	76,000	75,234	74,457	72,842	71,480
25～29	96,681	101,434	106,845	80,821	72,792	80,526	83,846	90,656	88,662	86,487	83,344	81,449
30～34	87,267	89,223	92,058	98,557	76,745	69,465	75,990	81,217	86,636	88,593	90,626	91,331
35～39	72,527	82,402	82,265	86,089	94,027	73,380	65,225	73,477	72,635	75,229	77,247	79,344
40～44	59,547	59,451	76,762	77,442	83,141	91,267	69,975	63,442	64,551	66,418	68,466	70,262
45～49	47,766	56,273	64,269	72,833	75,017	80,595	87,853	67,909	64,933	62,658	61,671	62,113

7 外国人登録者数

外国人登録者数は引き続き増加、フィリピン籍の増加数が中国籍を上回る

本市の外国人登録者数（以下「外録数」という。）の推移をみると、平成12年以降急速に増加しているが、これには、外国人の在留期間の見直し（延長）及びインターンシップ制度の整備等（いずれも平成11年10月1日施行）が影響しているものと思われる。外録数増加率は、昨年、2ポイント低下したものの、本年は4.7%と1.3ポイント上昇した。外録総数は、昨年より2,573人増加して57,531人となり、外録総数の人口に占める割合は2.6%となった。〔付表16〕

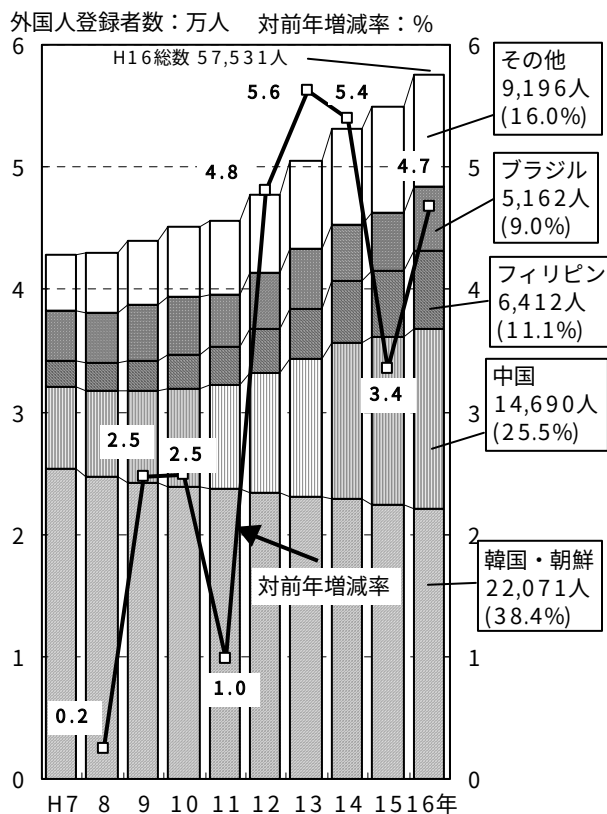
国籍別では、「韓国・朝鮮籍」が22,071人でトップであ

るが、年々減少を続けており、一方では「中国籍」及び「フィリピン籍」の増加が著しい。〔図15〕

最近1年間での国籍別の増減数を見ると、「フィリピン籍」が963人増で最も多く、「中国籍」の949人増がこれに次ぐ。〔図16〕

外録数は、今後、入国管理業務の強化等で停滞もしくは減少することも考えられるが、各種の規制緩和で激増する可能性もある。

図15 本市の外国人登録者数及び対前年増減率の推移
（各年10月1日現在）

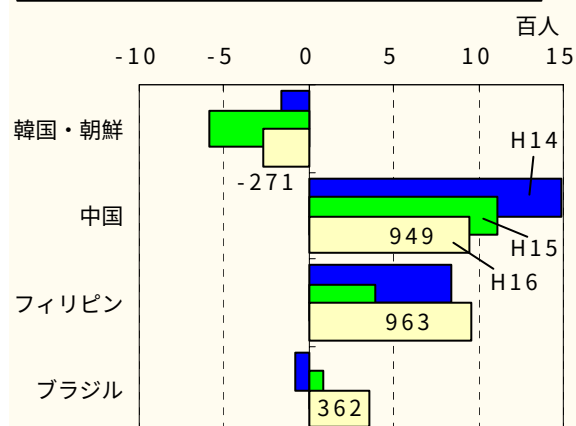


付表16 外国人登録者数の推移等

（各年10月1日）

年 別	人口 (A)	外録総数 (B)	(B)の(A)に 占める割合(%)
H7	2,152,184	42,871	2.0
8	2,151,084	42,977	2.0
9	2,154,376	44,041	2.0
10	2,161,680	45,134	2.1
11	2,167,327	45,578	2.1
12	2,171,557	47,766	2.2
13	2,177,451	50,451	2.3
14	2,186,075	53,174	2.4
15	2,193,376	54,958	2.5
16	2,202,111	57,531	2.6

図16 本市の国籍別外国人登録者数の増減
（各年10月1日現在の対前年増減）



利用上の注意

概要

この資料は「平成 16 年愛知県人口動向調査」の名古屋市分集計結果である。この調査は、直近の国勢調査の結果をベースにして毎月の出生、死亡、転入、転出などの異動数を加減することにより、人口及び世帯数の推計を行っているもので、今回は平成 12 年国勢調査の結果に基づき、平成 15 年 10 月～平成 16 年 9 月までの 1 年間の異動状況を取りまとめている。

地域区分

地域は次の区分による。

- 〔北海道〕 北海道
- 〔東北〕 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
- 〔関東〕 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- 〔中部〕 新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、

岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

〔近畿〕 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

〔中国〕 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

〔四国〕 徳島県、香川県、愛媛県、高知県

〔九州〕 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

〔国外〕 国外

なお「愛知県」とは、名古屋市外の愛知県内市町村を示す。

世帯のとりえ方

昭和 55 年国勢調査において、会社等の独身寮、寄宿舎に居住する単身者についての世帯のとりえ方が、それまでの棟ごとにまとめて 1 世帯としていたものから、1 人 1 人をそれぞれ 1 世帯とするものになったため、時系列比較の際は注意を要する。

用語の解説

自然増減

「出生数－死亡数」により求める。出生数が死亡数より多いとき「自然増」、またその逆を「自然減」という。

社会増減

「転入数－転出数」により求める。転入数が転出数より多いとき「社会増」、またその逆を「社会減」といい、それぞれ「転入超過」、「転出超過」ともいう。

人口に関する指数等

$$\text{・年少人口指数} = \frac{\text{年少人口（0～14歳人口）}}{\text{生産年齢人口（15～64歳人口）}} \times 100$$

$$\text{・老年人口指数} = \frac{\text{老年人口（65歳以上人口）}}{\text{生産年齢人口（15～64歳人口）}} \times 100$$

$$\text{・従属人口指数} = \text{年少人口指数} + \text{老年人口指数}$$

$$\text{・老年化指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

$$\text{・平均年齢} = \frac{\sum C_i \cdot f_i}{\text{総人口} - \text{年齢不詳人口}} + 0.5$$

ただし、 C_i … 年齢（0 歳、1 歳、2 歳、…）

f_i … i 歳の人口

$$\text{・年齢中位数} = i + C \left(\frac{P/2 - F}{f} \right)$$

（人口を年齢順に並べて数え、ちょうど中央に当たる人の年齢）

ただし、 i … 中位数を含む年齢階級の下限值

f … i 歳の人口

C … 年齢階級

P … 総人口 - 年齢不詳人口

F … 0 歳～($i-1$) 歳の人口

なお、統計表中の年齢中位数は年齢各歳別人口により算出しており、上記式では $C=1$ となる。

人口動態統計

出生、死亡、婚姻、離婚等の実態を明らかにするために各届書等から作成された人口動態調査票を取りまとめたもので、いわゆる業務統計に該当する。従って人口動向調査とは集計方法が異なるため、出生数、死亡数等の数値は両者の間で一致はしない。

統計数値

・構成比等の内訳数値は、表章単位未満を四捨五入しているため、その合計は総数と必ずしも一致しない。

・「0.0」は表章単位に満たない場合、「…」は不詳、「-」は該当数値のない場合を示し、増減数としてのゼロは「0」としている。